



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月5日

上場会社名 プリマハム株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2281 URL <https://www.primaham.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 千葉 尚登  
問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 (氏名) 内山 高弘 (TEL) 03 (6386) 1800  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	342,567	4.3	10,391	18.6	11,180	20.0	6,202	5.7
2023年3月期第3四半期	328,388	2.3	8,762	△28.8	9,314	△27.8	5,866	△24.2

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 8,643百万円(31.3%) 2023年3月期第3四半期 6,583百万円(△25.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	123.42	—
2023年3月期第3四半期	116.75	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	251,489	128,558	46.8
2023年3月期	229,887	123,194	49.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 117,652百万円 2023年3月期 113,169百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	20.00	—	45.00	65.00
2024年3月期	—	20.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	45.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	470,300	9.2	11,500	18.3	12,000	14.2	7,600	68.7	151.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	50,524,399株	2023年3月期	50,524,399株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	270,344株	2023年3月期	273,366株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	50,252,969株	2023年3月期3Q	50,250,771株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、年度初めの新型コロナウイルス感染症の分類変更や行動制限の撤廃に伴い、国内消費者の行動心理の活性化、インバウンド消費の回復に牽引され、外食需要や観光需要等が大幅に回復、百貨店やスーパー、コンビニエンスストア等の流通業も堅調に売上を伸ばしており、経済活動は正常化が進みました。

一方、原材料価格やエネルギーコストは高値が継続、円安の再度の進行、労働コストも高まる等により製造コストの上昇が続いております。このため前期に引き続き今期も様々な業種において値上げが複数回実施されており、食品全体の値上げ品目数が大きく増加しました。このような状況を受け、ベースアップ等で賃金水準は上昇に向かっていくものの、実質賃金は物価高の影響でマイナスが継続しており、国内消費者の生活防衛意識は高く、順調に消費拡大が続くとまでは言い難い市場環境となっています。

当業界におきましても、製造コストの上昇に加えて、畜肉の現地相場高や円安水準の継続、疾病問題等により畜肉市場が大きく変動する要因が多く、厳しい事業環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループの「目指す姿」である「おいしさと感動で、食文化と社会に貢献」という基本的な考えのもと、中期経営計画目標の達成に向けて、「ESGへの取り組みと持続可能な経営基盤の強化」と「外部環境の変化に対応した収益基盤の構築」及び「成長投資とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高3,425億67百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益103億91百万円（前年同期比18.6%増）、経常利益111億80百万円（前年同期比20.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益62億2百万円（前年同期比5.7%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

<加工食品事業部門>

2023年4月に続き昨年10月に4回目のハム・ソーセージ商品及び加工食品の価格改定を行い、販売先への納品価格の引き上げを実施いたしました。業界全体では生産数量や市販用商品市場の販売額が前期を下回る厳しい環境が継続しておりますが、当社のシェアは昨年度に引き続き上昇いたしました。

① ハム・ソーセージ部門

主力ブランドの「香薫<sup>®</sup>あらびきポークウインナー」は、定番の2個束商品に加え、大袋ジッパー付き商品の販売も引き続き好調に推移しました。販売促進政策では、東京ディズニーリゾート<sup>®</sup>ご招待キャンペーン、宝塚歌劇星組貸切公演ご招待キャンペーン、SNSを活用したキャンペーン等を継続的に実施し、当期も販売シェア拡大を継続することができました。新たに建て替えた鹿児島工場が今春より本格的に稼働を開始し、安定した商品供給や新商品の提供に寄与しております。結果、市販用商品、業務用商品ともに売上高及び販売数量は前年同期を上回り、順調に推移いたしました。しかし、損益面では価格改定の効果以上に原材料のコストが上昇し、前年同期を下回る結果となりました。

② 加工食品部門

加工食品部門では、常温商品の「ストックディッシュ」、手軽に食べられる「サラダチキンバー」等の市販用商品が消費者から評価を得ており、順調に拡大販売を進めることができました。また、業務用商品においては、市場の回復や価格改定の効果により売上を拡大できましたが、原材料等の仕入コストの大幅な上昇を補いきれず、利益面では前年同期を下回る結果となりました。

コンビニエンスストア向けのベンダー事業についても、原材料高騰や、燃料高、人件費アップ等製造コストが上昇しましたが、お客様の要望に応えた新商品開発、発売を継続的に行ったことにより、売上高、利益面ともに前年同期を上回ることができました。

これらの結果、加工食品事業部門における売上高2,400億95百万円（前年同期比4.6%増）となり、セグメント利益95億60百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

<食肉事業部門>

海外畜肉相場の高値継続と円安による輸入仕入コストの上昇等、食肉事業の仕入環境は厳しい状況が継続しています。販売先の店頭価格は、食肉の相場上昇を補うまでの十分な価格上昇には至らず、販売環境も同様に厳しい状況が継続しています。当該状況下、段階的に販売先への価格転嫁を進めるとともに、相場と連動した取引への変更も徐々に浸透し、前年同期を上回る売上高、利益を確保できました。

飼料価格は依然として高い水準のため、養豚事業も収益的には厳しい環境ですが、宮城新農場の肥育は順調に進み、予定通り出荷を開始しており、良質な豚肉を適正な価格で販売拡大できるよう、様々な取り組みを進めていきます。

これらの結果、食肉事業部門における売上高1,020億52百万円（前年同期比3.7%増）となり、セグメント利益9億53百万円（前年同期はセグメント損失51百万円）となりました。

<その他>

その他事業（理化学機器の開発・製造・販売等）における売上高4億19百万円（前年同期比9.2%増）となり、セグメント利益1億79百万円（前年同期比7.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### <資産>

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ216億1百万円増加し、2,514億89百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が135億35百万円、棚卸資産が57億78百万円、現金及び預金が38億64百万円、投資有価証券が29億56百万円、建物及び構築物が15億62百万円増加し、預け金が67億9百万円減少したことによるものです。

### <負債>

負債については、前連結会計年度末に比べ162億37百万円増加し、1,229億30百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が163億19百万円増加したことによるものです。

### <純資産>

純資産については、前連結会計年度末に比べ53億64百万円増加し、1,285億58百万円となりました。これは主に、利益剰余金が29億43百万円、その他有価証券評価差額金が11億31百万円、為替換算調整勘定が6億45百万円増加したことによるものです。

## ○キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて31億94百万円減少（前年同期は24億7百万円の増加）し109億4百万円となりました。

### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは176億58百万円のネット入金（前年同期は101億98百万円のネット入金）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益106億67百万円、減価償却費84億7百万円、仕入債務163億8百万円の増加、売上債権134億88百万円の増加、棚卸資産57億75百万円の増加、その他流動負債47億25百万円の増加です。

### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは143億4百万円のネット支払（前年同期は92億92百万円のネット支払）となりました。主な要因は、生産設備更新、生産性向上及び品質安定を目的とした有形固定資産の取得による支出88億60百万円、基幹システム構築を目的とした無形固定資産の取得による支出37億31百万円です。

### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは66億63百万円のネット支払（前年同期は14億39百万円のネット入金）となりました。主な要因は、配当金の支払32億64百万円、長期借入金の返済による支出28億71百万円です。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月8日付公表の「2023年3月期決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,861	14,726
受取手形及び売掛金	46,471	60,006
商品及び製品	18,994	23,855
仕掛品	4,498	4,489
原材料及び貯蔵品	3,479	4,405
預け金	7,041	332
その他	3,966	2,504
貸倒引当金	△2	△4
流動資産合計	95,311	110,316
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,979	55,541
土地	19,923	19,901
その他（純額）	28,407	24,341
有形固定資産合計	102,309	99,785
無形固定資産		
のれん	1,506	1,506
その他	5,802	10,387
無形固定資産合計	7,308	11,893
投資その他の資産		
投資有価証券	6,154	9,110
退職給付に係る資産	12,891	13,275
その他	5,969	7,169
貸倒引当金	△57	△62
投資その他の資産合計	24,957	29,494
固定資産合計	134,576	141,172
資産合計	229,887	251,489

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,287	65,607
短期借入金	323	226
1年内返済予定の長期借入金	3,774	3,387
未払法人税等	2,160	2,130
賞与引当金	1,637	697
その他	17,683	20,991
流動負債合計	74,867	93,041
固定負債		
長期借入金	19,783	17,298
役員株式給付引当金	92	100
退職給付に係る負債	4,714	4,683
資産除去債務	406	409
その他	6,828	7,396
固定負債合計	31,825	29,888
負債合計	106,692	122,930
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,908	7,908
資本剰余金	10,198	10,199
利益剰余金	86,324	89,267
自己株式	△405	△397
株主資本合計	104,025	106,979
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,302	3,433
繰延ヘッジ損益	△4	△16
土地再評価差額金	4,546	4,532
為替換算調整勘定	1,215	1,861
退職給付に係る調整累計額	1,084	862
その他の包括利益累計額合計	9,143	10,672
非支配株主持分	10,024	10,906
純資産合計	123,194	128,558
負債純資産合計	229,887	251,489



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	328,388	342,567
売上原価	290,526	302,988
売上総利益	37,861	39,578
販売費及び一般管理費	29,099	29,187
営業利益	8,762	10,391
営業外収益		
受取利息及び配当金	100	186
持分法による投資利益	26	31
補助金収入	106	116
その他	631	754
営業外収益合計	865	1,089
営業外費用		
支払利息	109	118
棚卸資産廃棄損	91	103
その他	113	78
営業外費用合計	313	300
経常利益	9,314	11,180
特別利益		
固定資産売却益	3	4
投資有価証券売却益	-	148
その他	0	0
特別利益合計	3	154
特別損失		
関係会社株式売却損	-	25
固定資産売却損	3	25
固定資産除却損	90	217
減損損失	14	296
投資有価証券評価損	-	3
その他	5	98
特別損失合計	114	667
税金等調整前四半期純利益	9,203	10,667
法人税等	3,042	3,561
四半期純利益	6,160	7,105
非支配株主に帰属する四半期純利益	294	903
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,866	6,202

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	6,160	7,105
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	74	1,124
繰延ヘッジ損益	△12	△12
為替換算調整勘定	636	638
退職給付に係る調整額	△284	△222
持分法適用会社に対する持分相当額	8	9
その他の包括利益合計	422	1,537
四半期包括利益	6,583	8,643
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,290	7,744
非支配株主に係る四半期包括利益	292	899

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,203	10,667
減価償却費	7,959	8,407
減損損失	14	296
のれん償却額	255	131
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	44	5
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△929	△942
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△2	△32
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△811	△694
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	3	8
受取利息及び受取配当金	△100	△186
支払利息	109	118
投資有価証券売却損益 (△は益)	-	△148
持分法による投資損益 (△は益)	△26	△31
有形固定資産売却損益 (△は益)	0	20
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	3
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	25
有形固定資産除却損	90	217
売上債権の増減額 (△は増加)	△14,247	△13,488
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△393	336
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,739	△5,775
仕入債務の増減額 (△は減少)	14,883	16,308
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	4,547	4,725
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△988	1,038
長期未払金の増減額 (△は減少)	△7	0
その他	57	50
小計	11,921	21,065
利息及び配当金の受取額	113	172
利息の支払額	△118	△116
法人税等の支払額	△1,716	△3,463
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,198	17,658

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
預け金の増減額 (△は増加)	5,000	-
有形固定資産の取得による支出	△12,347	△8,860
有形固定資産の売却による収入	25	1,294
無形固定資産の取得による支出	△1,815	△3,731
投資有価証券の取得による支出	△8	△1,402
投資有価証券の売却による収入	-	330
貸付けによる支出	-	△5
貸付金の回収による収入	0	0
敷金の差入による支出	△20	△32
敷金の回収による収入	95	19
定期預金の増減額 (△は増加)	38	△136
長期前払費用の取得による支出	△146	△1,713
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	10
その他	△113	△78
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,292	△14,304
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△83	△115
リース債務の返済による支出	△476	△393
長期借入れによる収入	8,200	-
長期借入金の返済による支出	△2,928	△2,871
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△9
配当金の支払額	△3,264	△3,264
非支配株主への配当金の支払額	△7	△7
自己株式の取得による支出	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,439	△6,663
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	115
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,407	△3,193
現金及び現金同等物の期首残高	16,230	14,098
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△0
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,638	10,904

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

1 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	229,573	98,430	328,004	384	328,388	—	328,388
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	20,755	20,764	40	20,805	△20,805	—
計	229,581	119,186	348,768	425	349,193	△20,805	328,388
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	9,102	△51	9,050	167	9,218	△456	8,762

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△456百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△457百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません

2 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	240,095	102,052	342,147	419	342,567	—	342,567
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	16,614	16,622	42	16,664	△16,664	—
計	240,103	118,666	358,770	461	359,232	△16,664	342,567
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	9,560	953	10,514	179	10,694	△302	10,391

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△302百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△302百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「加工食品事業部門」セグメントにおいて296百万円の減損損失を計上しております。